『動かへんなぁ』　４歳児　　６月　伏見こども園

子どもの姿

　砂場の近くでコンテナの上で、Ａくんが水を入れたバケツにプラスチックの青いホースの先を突っ込んでいます。

　バケツの水をホースですくって水を入れているようです。そこに、Ｂくんと Ｃくんが、近くの水場から容器に水を汲んで Ａくんのバケツまで運んできて入れています。「ビー玉、動かへんなぁ」「もっと運ぼう」と、Ｂくんと Ｃくんが話している目線の先を見ると、青いホースの先に透明ホースを繋いだ先にビー玉がありました。どうやら、三人は「このビー玉をホースの先から出したい」という思いで、水を運んだりホースで水をすくったりしているのです。

　Ｂくんと Ｃくんは、何度も Ａくんの持つ青いホースまで水を運びますが、直接ホースに水を入れるのではなくバケツに入れます。Ａくんがホースで水をすくう度にビー玉は、ゆらゆら揺れて行ったり来たり。

　Ａくんは同じ調子ですくっていましたが、バケツの水が増えて、水をすくいやすくなったようで、たくさんの水がホースに流れ込み、「あぁぁ！」とワクワクした声と目線はビー玉の方に集まりました。「出た！」と、嬉しそうにビー玉を持つ Ｂくんは「先生、明日もやってみる！」と嬉しそうに話していました。

※青色のホース：硬いプラスチック、透明ホース：水の流れやビー玉が見える

子どもの育ちや学び

水の流れによってビー玉が行ったり来たりすることを楽しんでいる。
（友達と様子を見て楽しむ）
（友達と楽しさの共有）

・青いホースの端を持ち、水をすくうとホースの中の水が流れることに気付き、何度もすくっている。
（やってみたい、もの（ホース）への興味、水の流れへの興味）
・友達のつぶやきを聞いて、「水を運ぼう」と、水を運んだりすくったりしている。（動くかなという期待）

・使ったことのあるホースを使って水を流そうとしている。（ワクワク、期待、やってみよう）

保育者の思い

　バケツの水をホースの先ですくうと、少しの水しか流れないのに、なぜ、一旦バケツに水を溜めているのだろう。

　二人がコップで水を汲んできてバケツに入れる時、Ａくんの持つホースの口は、上に向いているタイミングだった時、保育者は、そのままホースに水を注ぐと思って見ていました。それなのに、三人はそうしようとせず、小さなバケツに水を運び、少ししかすくえない方法ですくい、ビー玉を出そうとしているのです。

　三人の目的は、「ビー玉をホースの先から出す」ことでした。すぐにビー玉を出す方法も経験から知っていたはずです。でも、知っていたからこそ、ビー玉が行ったり来たりするだけで動かないことをおもしろがり、一見、じれったい方法ではありますが、そのじれったさが三人の遊びを面白くさせているのだろうと思い、保育者も一緒に楽しむことにしました。

家庭だったら・・

　子ども達は、友達と一緒に遊ぶ中で、「水を流すとビー玉が動く」ことを知るように、友達との距離感や同じ思いや感覚で遊ぶ楽しさを感覚的に味わえるようになってきます。なんとなく感じていることを繰り返し、身につけていけるように、見守っていきたいですね。